

# IT業界の 動向を学び 今を知る

第一回の「企業でのクラウド利用について」ではクラウドサービスを利用する際の主な脅威や注意点についてお伝えしました。今回の第二回ではクラウドに「繋ぐ」為の重要な新ネットワーク技術である「SD-WAN」についてお伝えします。

## SD-WANとは

SD-WANとは「Software Defined Wide Area Network」の略で、「その名の通りソフトウェアによって仮想的な広域ネットワークを作る技術・コンセプトの総称

を意味します。2016年頃から注目を浴び始め、インターネットや雑誌の記事などで目にされている方も多いのではないのでしょうか。SD-WANはIoT (Internet of Things)と同様に今爆発的に普及し始めている技術です。このように話題性が高まりますと、全ての問題を解決してくれる素晴らしい技術の様に思われがちですが、今回の連載ではSD-WANの基本的な特徴をpushしながら、

ら、企業においてどういったことが解決出来るかご紹介致します。

一般的に在米日系企業ではMPLSや専用線といった高品質ですが低帯域で高価な回線を利用したり、もしくは安価ですが接続が安定しないこともあるブロードバンド回線を導入しWANを構築することが一般的です。SD-WANではこれらの物理回線を利用しながら回線種別に依存せずソフトウェアの技術を用いてWANを構成する技術を指します。このように一文に

## アプリケーション視点のネットワーク

「ネットが遅い」や「クラウド化が遅い」といった声を多く聞くようになりまし。これらの問題に対しコストを掛けずに解決する手段が求められているのです。

このように、ますますクラウド化が進むアプリケーションですが、その根底となる拠点とクラウド間のネットワークは非常に重要となってきました。そのネットワークインフラにはアプリケーションに対応できる以下の柔軟性と迅速性が求められてきています。

- (1) 新しいアプリケーションに対応する、WAN設計の迅速な対応
- (2) アプリケーショントラフィックの可視化による状況把握
- (3) 運用負荷の軽減

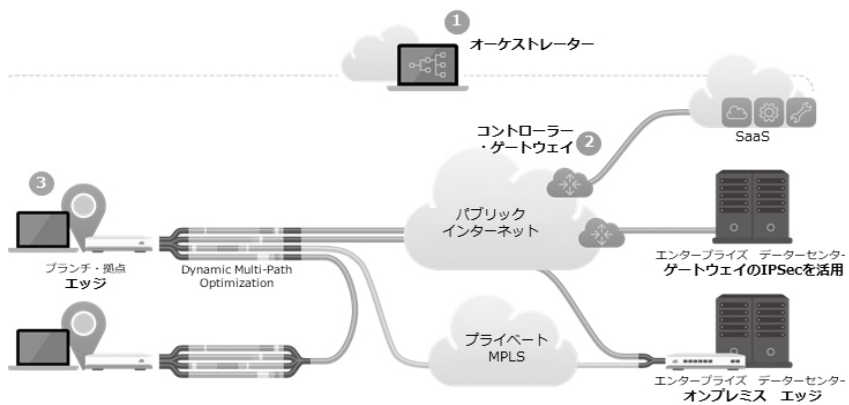
## ② SD-WAN入門 (1)

そもそも、なぜこういった技術が必要となったのでしょうか。それは企業のグローバル化、多拠点化に伴いクラウド利用が増加し、しかもそのクラウドは1種類・1カ所ではなく、メールや基幹システム、顧客管理システム等多岐にわたり今まではデータセンター等に集約されていたシステムがクラウド化に伴い世界中様々な場所に分散され、WANに流れるトラフィックは増大の一途を辿っています。近年、企業内のネットワークでユーザーから「インター

多くの企業において、クラウドの増加に伴う運用・管理の複雑化や増加するトラフィックへの対応やコスト増加など様々な問題に直面しておりアプリケーション視点のネットワークを再構築する事が求められています。

## SD-WANの仕組み

SD-WANは、ユーザー企業が各拠点に提供される通信端末(Edge端末)を設置し、Edge間でVPNによるオーバーレイ型の仮想ネットワークを作る仕組みです。アンダーレイ(物理)



ネットワークには、既存のWAN回線(専用線、MPLS等)やインターネット等の品質の異なる回線を組み合わせて用いることが可能です。(図1参照)各拠点のEdgeとVPNは、SD-WANコントローラによって一元的に管理出来、拠点側で設定変更作業を行う必要がないため、ポリシーの設定やネットワーク構成の変更が従来に比べて格段に容易となります。

以上、今回はSD-WAN入門として、今SD-WANが注目されている理由とその仕組みを簡単にお伝えしましたが、次回も本連載で引き続きSD-WANの魅力をお伝え出来ればと思

余財弘大  
SYSCOM USA INC.